

2月3日(土) 「第5回 国際問題を考える日」に本校生がパネリストとして参加

「国際問題を考える日」は、主催が兵庫県教育委員会、大阪大学、WHO神戸センターで「高校生のグローバルな社会課題やビジネス課題への関心を高め、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を図る」ことなどを目的として開催されています。

今年、六甲アイランドの神戸ファッションマートで開催されました。

県内の大阪大学連携校や県内・近畿地区のSGH指定校、アソシエイト校等が参加しており、SGH指定校である兵庫高校がとりまとめの窓口になっています。

午前中に行われたパネルディスカッションに、本校2年生の松長倅多君がパネリストとして参加しました。

当日のプログラム

午前 ・基調講演

「2050年の世界と日本～世界が羨む幸福社会～」

WHO神戸センター上級顧問官 野崎慎仁郎氏

・パネルディスカッション テーマ「2050年の世界と日本」

コーディネーター WHO神戸センター上級顧問官 野崎慎仁郎氏

パネリスト 高校生4名

(神戸高校、加古川東高校、明石北高校、篠山鳳鳴高校)

午後 ・ポスターセッション



500人近い県内外の高校生や先生方の前で、松長君は意見発表として「人口減少に苦しむ日本にとって、生産性の向上が必要。そのためには過去の知恵を生かしながら新技術やAIの積極的な活用も」と話し、会場からの質問にもしっかりと答えていました。

準備は大変だったと思いますが、貴重な経験になったと思います。おつかれさまでした。